

(資料 6-2)

平成 2 1 年度
事業計画書及び収支予算書

財団法人日本宇宙少年団

平成21年度 事業計画書

I. 目的

宇宙及び科学への関心と理解増進を推進する事業を通じて、団員を中心とした青少年の宇宙への夢と探求心の醸成を図るとともに、国際社会に貢献できる将来の人材育成を目的として事業を実施する。

II. 概要

新たに設けられた運営委員会のもと、団員及び分団活動の拡充、教材・プログラム開発、リーダー育成、アウトリーチ活動などを行う本部事業に加え、宇宙航空研究開発機構（以下「JAXA」という。）が実施する宇宙教育活動の運営支援及び自治体・企業等と連携・協力した活動を行う特別事業を実施する。

また、平成21年度事業の実施にあたっては、前年度に引き続き、JAXAとの宇宙教育活動に関する協定書に基づき、JAXAと連携・協力しながら、宇宙教育の実践と裾野の拡大を行う。

III. 事業の実施計画

各事業の実施計画は次のとおりである。

III-1. 本部事業

【1】 運営委員会の設置、運営

YAC本部長の下、分団長及びリーダーなどから構成されるYAC本部運営委員会（全体委員会）を設置し、YAC運営・活動における目標・方針づくり、体制、分団運営に係る共通事項などを検討、調整のうえ、具体的な施策を実行する。

全体委員会の下に、共通プログラム、団員に係る活動を検討する子ども部会、リーダー育成について検討する指導者育成部会、教材開発を検討する教材開発部会、活動に係る財政的支援、組織外へのアウトリーチ策などを検討するおとな部会の計4つの部会を設置する。

【2】 団員拡大・分団活動（支援）の拡充

運営委員会全体委員会で検討されたYAC活動における方針に基づき、団員拡大、分団活動拡充のための支援、コーディネートを実施する。

(1) 分団状況把握、運営支援・コーディネート

新しいデータベースなどを通じて、分団の活動状況及び人材（団員・指導員）に関す

る情報、データの収集・管理を行うとともに、分団運営に有効な情報、資料等の提供を行う。

(2) 地域間協力、地区連絡協議会の活動推進

分団相互の情報交換や研修を行うために、全国5地区（北海道・東海・中国・四国・九州）で結成された地区連絡協議会の活動を支援する。また未結成の4地区（関東・東北・近畿・北陸／信越）の結成を推進する。

(3) 分団長会議

地方本部長、支部長及び分団長の参加による「全国分団長会議」を開催し、より多くの情報及び意見の交換を行い分団活動の活性化を図る。

(4) 助成金

通信誌の発行、横断的な分団活動及び各分団活動に必要な経費を一部助成する。

(5) 分団結成及び団員拡大

地域の自治体関係者や教育関係者等の関係機関に対し、新分団の結成及び団員拡大に関する協力と支援を依頼する。新規に分団等の結成を検討又は計画している地区、団体等に対して積極的に助言及び指導を行い、必要に応じて、活動している分団に協力を要請する。新規分団の結団にあたっては、職員を派遣し支援を行う。

(6) 表彰制度の運用

年間通して、分団活動、団員・組織拡大、教材開発、PR貢献、地区連携などで優れた成果があった分団について表彰を行う。

【3】教材・(共通)活動プログラム開発

ロケット・人工衛星分野（全国水ロケット競技大会、衛星アイデアコンテスト）、皆既日食・木漏れ日観察について、団員・分団が共通の意識を持って取り組むことができるプログラムを開発し実施する。団員が必ず取り組む共通プログラムに加えて、月別の宇宙・天文に関する話題を捉えた各月の団員・分団活動を開発し実施する。

また、団員向けに宇宙学習教材を制作し定期的に配付するほか、ホームページでの教材・プログラムに関する情報提供なども行う。

【4】宇宙ホンモノ体験活動・国際交流活動

JAXAとの宇宙教育活動に関する協定に基づき、JAXAと連携・協力した宇宙ホンモノ体験活動、国際交流活動を実施し、青少年に潜在する冒険心・好奇心・匠の心に火をつけ、「いのちの大切さ」を基本に据えた、次世代の日本を担う青少年の人材育成に資する。

(1) 皆既日食体験キャンプ2009 【平成21年7月】

国内では46年ぶりの今世紀最大の天文ショーである皆既日食が観測できる種子島にて「皆既日食体験キャンプ」を開催する。

(2) 2009国際スペースキャンプ in 韓国 【平成21年8月】

韓国にYAC代表団を派遣し、宇宙を通しての科学技術の知識交換及び実験等のワークショップ、文化交流を通して国際親善、国際交流を行う。

(3) 種子島スペースキャンプ2009 【平成21年8月】

種子島宇宙センターの特別見学、自然環境学習、キャンプ実習等をカリキュラムとした体験形式の「種子島スペースキャンプ」を開催する。

(4) 子ども衛星アイデアコンテスト 【平成20年8～9月】

全国の小中学生に、「人工衛星のアイデアを提案する」という課題に取り組む機会を提供し、宇宙を身近に感じるとともに地球・生命の大切さや宇宙開発の意義などを学んでもらう。

(5) 宇宙の日ふれあいフェスティバル2009 【平成21年9月】

東京都三鷹市に於いて開催が予定されている「宇宙の日ふれあいフェスティバル2009」を文部科学省及びJAXA他と共同で開催する。

(6) 全国水ロケット競技大会2009 【平成21年11月】

宇宙教育活動の素材として格好である水ロケットの飛距離、高度、予め決められた定点へのアプローチ度、アイデアデザインなどを競い合う全国水ロケット競技大会を開催する。全国各地で開催される予選地区大会の代表が集った水ロケット競技のほか、専門家による講演や青少年交流も行う。

(7) つくばスペースキャンプ2009 【数回程度・時期未定】

筑波宇宙センターの特別見学、宇宙飛行士模擬訓練、専門家との交流など体験形式の「つくばスペースキャンプ」を開催する。

(8) 国内外ロケット打ち上げ体験活動【数回程度・時期未定】

種子島宇宙センター、内之浦宇宙空間観測所、米ロ打ち上げ射場での打ち上げ体験活動を実施する。

(9) ハローヒューストン（テレビ会議システムを活用した宇宙飛行士との交流）【数回程度・時期未定】

テレビ会議システムを活用し、米国・ヒューストンで訓練中の日本人宇宙飛行士との交流機会を設け、団員と宇宙飛行士の直接対話・質疑応答を行う。

(10) JAXA施設特別公開での出展【平成21年4月・9月】

JAXAの施設特別公開時において、JAXAと連携・協力した科学実験や科学工作を実施する。

(11) 講演会等への講師派遣【数回程度・時期未定】

宇宙・科学の普及啓発を目的とした講演会等に宇宙・天文等の専門家・講師の派遣を行う。

【5】(ボランティア) リーダーの育成

YACリーダーが有しておくべき心構え、指導技術、危機・安全管理、教材実習などを習得できるJAXA宇宙教育指導者セミナー受講、修了の促進を行う。修了したリーダーに対しては、JAXAとの連携・協力により、スキルアップのための機会提供、宇宙教育実践の提供、教材開発補助を行う。

【6】情報発信・メディアプロモーション

団員等へ情報の提供を行うとともに、広く一般へ情報提供することにより分団活動への理解を得る。

(1) 青少年に対する宇宙教育情報誌の発行

JAXAとの連携・協力した宇宙教育情報誌、副読本を製作し、団員等へ定期的を送付する。

(2) ホームページ等の充実による迅速かつ確実な情報提供

ホームページ内のブログ、メールマガジンなどを通じて、本部・分団情報を迅速かつ確実に広く公開し、インターネット放送を通じて、不特定多数の一般の方との双方向コミュニケーションも確保。推進する。

(3) ターゲットメディアへのプロモーション

活動・事業、地域、性別、年齢層などに応じたターゲットメディアへのプロモーションを積極的に行い、メディア露出、認知度を高める。

(4) プロモーションツールの充実及び貸出、販売

プロモーションに必要なツール(リーフレット、パネル、模型、ビデオなど)を充実させ、配付、貸出を行うほか、ニーズを踏まえた上で、YAC独自グッズの制作、販売を行う。

Ⅲ－２．特別事業

【１】 JAXA宇宙教育活動支援事業

JAXAからの受託事業として、青少年及び教育関係者等を対象に宇宙・科学に関する教育実践活動及び教育支援活動を行う。

(1) 宇宙教育活動支援業務委託

宇宙開発に関する青少年への教育・普及活動の一環として、宇宙に興味を持つ小中学生・高校生等を対象に合宿及び通所形式により、全国規模で、本格的かつ専門的な宇宙教育を実施する「コズミックカレッジ」の運営支援を行う。また、宇宙・科学に関する教育活動に関心を持つ教員等を対象に、合宿及び通所形式で宇宙・科学に関する教育支援活動も行う。

さらに、全国各地で（社会・生涯教育として）宇宙開発に取り組んでいる（または、これから取り組もうとする）団体や個人のボランティア活動を支援し、青少年への宇宙教育に取り組むリーダー（指導者）となる者を育成し、宇宙教育活動の拡大及び活性化を図ることを目的とした支援活動、教材の開発等を行う。

Ⅲ－３．その他

当財団の目的を達成するために必要な事業を行う。

【１】 他青少年団体及び博物館・科学館などとの連携・協力

JAXAとの宇宙教育活動に関する協定書（平成20年3月28日締結）に基づき、JAXA及び特定非営利活動法人 子ども・宇宙・未来の会（KU-MA）と連携・協力しながら、宇宙教育の実践と裾野の拡大を行う。YAC、JAXA、KU-MA、それぞれの組織・団体が実施した宇宙教育活動参加者に新たに配布される「宇宙」まなびの証事業も推進する。

また、財団法人ボーイスカウト日本連盟など他青少年団体、全国の博物館・科学館との連携・協力のほか、企業・自治体等との連携強化を図りながら、宇宙教育活動の全国展開を図る。

平成21年度 収支予算書
【平成 21年4月1日から平成 22年3月31日まで】

単位:千円

| 科 目 | 予 算 額 | 前年度予算額 | 増減 | 備考 |
|---------------|---------|---------|----------|----|
| I 事業活動収支の部 | | | | |
| 1. 事業活動収入 | | | | |
| ① 会費収入 | 14,000 | 18,500 | △ 4,500 | |
| 団員会費収入 | 7,000 | 9,500 | △ 2,500 | |
| (入会金収入) | 2,000 | 3,500 | △ 1,500 | |
| (団員会費収入) | 5,000 | 6,000 | △ 1,000 | |
| 賛助会費収入 | 7,000 | 9,000 | △ 2,000 | |
| ② 事業収入 | 29,940 | 15,060 | 14,880 | |
| (1)物販・貸出事業収入 | 400 | 400 | 0 | |
| (2)イベント事業収入 | 15,000 | 500 | 14,500 | |
| (3)水口ケツ大会収入 | 12,500 | 1,200 | 11,300 | |
| (4)催事参加費収入 | 2,040 | 12,960 | △ 10,920 | |
| ③ 補助金等収入 | 10,000 | 23,100 | △ 13,100 | |
| ④ 受託事業収入 | 171,000 | 225,000 | △ 54,000 | |
| ⑤ 雑収入 | 470 | 100 | 370 | |
| 受取利息収入他 | 470 | 100 | 370 | |
| 事業活動収入計 | 225,410 | 281,760 | △ 56,350 | |
| 2. 事業活動支出 | | | | |
| ① 事業費支出 | 167,063 | 169,870 | △ 2,807 | |
| (直接経費計) | | | | |
| (1)本部事業支出 | 8,540 | 8,260 | 280 | |
| (2)イベント事業経費支出 | 21,300 | 1,600 | 19,700 | |
| (3)補助金等事業支出 | 10,000 | 35,560 | △ 25,560 | |
| (4)受託事業支出 | 80,000 | 121,000 | △ 41,000 | |
| (5)物販・貸出事業支出 | 320 | 250 | 70 | |
| (6)広報費支出 | 0 | 500 | △ 500 | |
| (間接経費計) | | | | |
| (1)人件費支出 | 39,344 | 0 | 39,344 | |
| (2)管理経費支出 | 7,559 | 2,700 | 4,859 | |
| ② 一般管理費支出 | 51,021 | 106,390 | △ 55,369 | |
| (1)人件費支出 | 27,986 | 81,470 | △ 53,484 | |
| (役員報酬) | 6,900 | 9,600 | △ 2,700 | |
| (給与手当) | 14,918 | 37,630 | △ 22,712 | |
| (役務費) | 4,900 | 27,740 | △ 22,840 | |
| (法定福利費) | 1,248 | 6,000 | △ 4,752 | |
| (福利厚生費) | 20 | 500 | △ 480 | |
| (2)管理経費支出 | 23,035 | 24,920 | △ 1,885 | |
| (旅費交通費) | 1,100 | 3,600 | △ 2,500 | |
| (賃借料) | 8,240 | 10,848 | △ 2,608 | |
| (リース料等) | 4,800 | 0 | 4,800 | |
| (光熱費) | 550 | 1,500 | △ 950 | |
| (諸謝金) | 100 | 500 | △ 400 | |
| (会議費) | 200 | 400 | △ 200 | |
| (交際費) | 150 | 300 | △ 150 | |
| (諸会費) | 370 | 506 | △ 136 | |
| (通信運搬費) | 1,000 | 1,500 | △ 500 | |
| (消耗品費) | 700 | 1,000 | △ 300 | |
| (印刷製本費) | 1,000 | 1,300 | △ 300 | |
| (資料費) | 15 | 0 | 15 | |
| (顧問料) | 2,000 | 850 | 1,150 | |
| (租税公課) | 40 | 50 | △ 10 | |
| (研修費) | 0 | 100 | △ 100 | |
| (修繕費) | 100 | 200 | △ 100 | |
| (支払利息) | 380 | 1,000 | △ 620 | |
| (雑費) | 550 | 1,000 | △ 450 | |
| (予備費) | 1,740 | 266 | 1,474 | |
| ③ 法人税等支出 | 4,500 | 4,500 | 0 | |
| 法人税等支出 | 4,500 | 4,500 | 0 | |
| 事業活動支出計 | 222,584 | 280,760 | △ 58,176 | |
| 事業活動収支差額 | 2,826 | 1,000 | 1,826 | |
| II 投資活動収支の部 | | | | |
| 1. 投資活動収入 | 0 | 0 | 0 | |
| 投資活動収入計 | 0 | 0 | 0 | |
| 2. 投資活動支出 | | | | |
| ① 退職給付引当資産 | 2,826 | 1,000 | 1,826 | |
| ② 減価償却引当資産 | 0 | 0 | 0 | |
| 投資活動支出計 | 2,826 | 1,000 | 1,826 | |
| 投資活動収支差額 | △ 2,826 | △ 1,000 | △ 1,426 | |
| III 財務活動収支の部 | | | | |
| 1. 財務活動収入 | | | | |
| ① 借入金収入 | 30,000 | 0 | 30,000 | |
| 財務活動収入計 | 30,000 | 0 | 30,000 | |
| 2. 財務活動支出 | | | | |
| ① 借入返済支出 | 30,000 | 0 | 30,000 | |
| 財務活動支出計 | 30,000 | 0 | 30,000 | |
| 財務活動収支差額 | 0 | 0 | 0 | |
| 当期収支差額 | 0 | 0 | 0 | |
| 前期繰越収支差額 | 65,705 | 65,705 | 0 | |
| 次期繰越収支差額 | 65,705 | 65,705 | 0 | |